

第2回 ボランティア活動推進協議会 専門部会検討結果

【第2回協議会専門部会の論点】

第3回協議会での委員意見を踏まえ「基本理念」「将来像」を再考する。加えて運営方針についても再考する。

①将来像再考案について

参考資料：資料4-4

■将来像■

<将来こうあるべきとしてめざす理想像>

【第2回専門部会を受けての修正案】
だれもが 地域とともに歩む 未来を創る
「いたばし総合ボランティアセンター」
～ 笑顔でバトンをつなぐ“ボラセン”～

↑ わかりやすい内容に変更

【第1回部会検討案】
区民活動の多様性を活かし、世代を問わず地域と共に歩み未来をはぐくむ
いたばし総合ボランティアセンター
CF：～誰もが笑顔になるいたばし～

②基本理念再考案について

■基本理念■

<将来像を実現するための考えを文章化したもの>

【第2回専門部会を受けての修正案】
ネットワークの強化と 共創によって 人と人をつなげ、
自主性に基づく ボランティア・市民活動を 支援していく

↑ 説明的な部分を変更

【第1回部会検討案】
一人ひとりがより良い日常を送るために、区民・団体・法人に関わらず、
それらの自主性に基づき、ボランティア・市民活動を行うことを支援することを
目的として設置する。
区民の暮らしを豊かにする様々な活動を推進するため、センターが中心となり
ネットワークを強化し、人と人が安心してつながる「いたばし」をめざすもの
である。

将来像・基本理念案の検討内容

■将来像■

【前提】
本ビジョンはいたばし総合ボランティアセンター（以下「ボラセン」という。）のあり方を示すものであり、将来像も「ボラセンがめざす理想像」を掲げる必要がある。また、対象を特定の人にしないため、抽象的な表現を用いている。時勢に合わせ、多様性を認めて区民活動を支援する内容となるよう見直した。

【ワードについての説明】

ワード	理由
「だれもが」	「世代を問わない」ことと「多様性」を一言で表している
「地域とともに歩む」	ボラセンが地域課題に取り組む事業展開を行っていることを表している
「未来を創る」	「次世代の方たちにとっても支援し合える関係性が繋がられる」センターをめざすことを表している
「笑顔で」	区民の豊かな暮らしを表わしている。
「バトンをつなぐ」	「未来を創る」の意味を補完している。

■基本理念■

【前提】
今までの基本理念案は、理念であるのに説明的であったため、内容を再度精査し、主語が「ボラセン」であることを明確にし、ボラセンがボランティア・市民活動を広げるため、どう支援していくのかを示すものに修正した。

【ワードについての説明】

ワード	理由
「ネットワークの強化と」	ボラセンの支援の方向性として「人と人とのつながりを強化し」を示している。
「共創によって」	ボラセンの支援の方向性として「人や資源とのつながりの中で未来を創るために何かを生み出すこと（＝共創）」を表している。
「人と人をつなげ」	多様な活動を行う人たちと、世代を問わず関係性を構築していく（つながっていく）ことを表わしている。
「自主性に基づく」	ボラセンを協働設置しているのは、自主性に基づくボランティア・市民活動を支援していくためであるので、その部分を強調するため「自主性に基づく」と明記している。

③運営方針案について

■運営方針■

【設置主体・運営主体についての検討案】

区民・地域団体・法人・板橋区で協働し、
いたばし総合ボランティアセンターの設置・運営を行う。

※上記については例示であり、板橋区でのボランティア・市民活動に関わる人々による協働を表わしている。

なお、今までは、NPO 法人・社会福祉協議会に限定していたが、SDGs等の視点から多様な活動主体の参画を認める必要があるため、参画者の幅を広げつつ役割をしっかりと定め、安定かつ機能的なボラセンの運営になるよう、協働する主体の役割を明確に定義づけていく。

<各主体に期待する役割>

各主体	役割
区民	ボランティア・市民活動等を通じ、センターの事業展開に参画する
地域団体	団体活動を通じて、区内の活動が活性化するようにセンターの運営や、ボランティア・市民活動の活性化の検討等に参加する
法人	センターの事務局運営をはじめ、法人格を取得しているからこそこの視点で、センター運営及び区内の活動を活性化する取組に関わる
板橋区	活動場所の提供や規定の整備、会議等の開催など環境整備に努める

■役員会について■

役員会・運営委員会は、運営委員会が立案機能、役員会が意思決定機能を担い、現在機能しているため、慎重な検討が必要となる。そのため、役員会・運営委員会に代わる組織形態のあり方については、本ビジョンの決定内容を踏まえ、必要に応じて整理していく。